

<事業名> 豊岡の街の歴史を深掘り

団体名	豊岡の街の歴史を深掘り研究会
所在地	豊岡市高屋
代表者名	会長 近本 正利

事業内容	<p>1. 豊岡市街の史跡調査</p> <p>①豊岡市立図書館の門</p> <p>②豊岡市寿通りのロータリー</p> <p>③久美浜町の旧県庁舎</p> <p>2. 玄武岩の歴史及び実地調査</p> <p>①玄武洞</p> <p>②豊岡市内の玄武岩の石垣</p> <p>③城崎町大谿川の石垣</p> <p>④伊賀谷の玄武岩</p> <p>⑤市内二見の採石場跡</p>	
地域	豊岡市内（市内、城崎町、久美浜町）	
事業の効果	<p>①団体（組織）内の効果</p> <p>豊岡の歴史の一面ではあるが、構成員が実地調査、ボランティアガイド等からより多くの知識を得ることができた。</p> <p>②地域への効果</p> <p>発表会で豊岡の街の歴史と魅力を知ってもらうことができたし、まとめた資料を通じて多くの人に豊岡市の魅力を再発見していただけたと思う。</p>	
事業経過	年 月 日	<p>30年5月8日 事業の進め方を検討。</p> <p>30年5月22日 玄武洞ミュージアムで館長から歴史の説明を聞く。</p> <p>30年5月29日 伊賀谷の玄武岩の実地調査、二見地区の採石場跡の調査。</p> <p>30年6月26日 市内のロータリーが作られた経過、代表的な玄武岩の石垣等の説明及び案内をボランティアガイドの松井さんをお願いして市内を現地調査。</p> <p>30年7月10日 城崎町大谿川の玄武岩の石垣について、ボランティアガイドの坂田氏に説明を受けるとともに現地調査。</p> <p>30年9月25日 調査活動の中間まとめ。</p> <p>30年10月2日 調査活動の中間まとめ。</p> <p>30年10月16日 調査活動の資料づくり。</p> <p>30年11月6日 調査活動のまとめの資料づくり。</p> <p>30年12月7日 みてやま学園フォーラムにおいて成果を発表。</p> <p>31年2月5日 まとめ冊子の原稿づくり。</p>
協働の相手方	特になし	

今後の課題等

〈事業を実施する上での課題〉

①団体（組織）の課題

少ない構成員での活動であるため、ゆとりある十分な行動がとれないこと。

②地域の課題

旧来の市街地に存在する歴史的な産物が、地域の若い人たちに忘れ去られていくこと。

〈31年度以降の事業計画〉

なし



30年5月22日 玄武洞ミュージアム



30年6月26日 寿ロータリー



30年7月10日 城崎町



30年12月7日 実践活動発表

代表であいさつした豊岡市の谷岡まさ子さん(66)は、「資料を集め、現場を回る中で、但馬の良さを深さを知り、充実した研究ができた。これからは一生勉強、一生青春を貫きたい」と締めくくった。(阿部利)

この日各班が、町でこれだけ玄武岩が使われているかを調べたアンケート結果を披露したり、その調理実習の様子、七福神を実際に訪ねた様子を紹介したりした。有志の銭太鼓グループも、老人ホームなどの活動を紹介。演技を上演した。

高齢者大「みてやま学園」大学院生ら七福神やそば物語などテーマ

豊岡 高齢者大「但馬文教育」ラムが7日、豊岡市妙みてやま学園の大学院で、楽寺の但馬文教育で2年学生生ら、学の成果を披露する「みてやまフォ



演奏を披露する銭太鼓のグループ但馬文教育

但馬の研究 成果発表